

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第七主日礼拝のしおり

## 2021年7月11日

### 前奏：

#### 招きのことば：詩編 85 編 9-14 節

わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます。

御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に 彼らが愚かなふるまいに戻らないように。

主を畏れる人に救いは近く 栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。

慈しみとまことは出会い 正義と平和は口づけし

まことは地から萌えいで 正義は天から注がれます。

主は必ず良いものをお与えになり わたしたちの地は実りをもたらします。

正義は御前を行き 主の進まれる道を備えます。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは御言葉によって私たちに信仰を与え、強めてくださいます。あなたの赦しをいただき、新たにいのちをいただきます。ここから私たちの新しい一週の歩みが始まります。

あなたは御言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 1章 3-14節

わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

## 福音書朗読：マルコによる福音書 6章 14-29節

イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」そのほかにも、「彼はエリヤだ」と言う人もいれば、「昔の預言者のような預言者だ」と言う人もいた。ところが、

ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言った。実は、ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアと結婚しており、そのことで人をやってヨハネを捕らえさせ、牢につないでいた。ヨハネが、「自分の兄弟の妻と結婚することは、律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。そこで、ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが、自分の誕生日の祝いに高官や将校、ガリラヤの有力者などを招いて宴会を催すと、ヘロディアの娘が入って来て踊りをおどり、ヘロデとその客を喜ばせた。そこで、王は少女に、「欲しいものがあれば何でも言いなさい。お前にやろう」と言い、更に、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」と固く誓ったのである。少女が座を外して、母親に、「何を願いましょうか」と言うと、母親は、「洗礼者ヨハネの首を」と言った。早速、少女は大急ぎで王のところに行き、「今すぐに洗礼者ヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます」と願った。王は非常に心を痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、少女の願いを退けたくなかった。そこで、王は衛兵を遣わし、ヨハネの首を持って来るようにと命じた。衛兵は出て行き、牢の中でヨハネの首をはね、盆に載せて持って来て少女に渡し、少女はそれを母親に渡した。ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、やって来て、遺体を引き取り、墓に納めた。

### 讚美歌 129 番

1. 贖い主(あがないぬし)に み栄えあれ、心のきよき 幼子(おさなご)らは  
ホサナと歌い 迎えまつる 救い主(すくいぬし)なる ダビデの子を
2. 天(あま)つみ使い 地のもろびと、声を合わせて み名をばほむ  
棕櫚(しゅろ)をかざして 主を迎えし み民にならい たたえまつる
3. 昔 み民の ときのかえを よみしたまいし 尊き主よ  
今し ささぐる たたえ歌を、天(あま)つ国にて 聞かせたまえ **アーメン**

### 説教：「喜んで耳を傾けていた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

ヘロデは苦しみました。父は妻の不倫を許せず殺してしまったヘロデ大王です。ヘロデ大王は凶暴な王でした。自分の身を守るために親族のいのちも民のいのちも簡単に抹殺した王でした。イエス様が生まれたとき、遠くからきた博士たちに、ユダヤ人の王として生まれた方を探しに来ました、と言われて、もしかしたら将来自分の立場を脅かす存在になるかもしれない、と恐れて、ベツレヘムと周辺の2歳以下の男の子を皆殺しにしたあの凶暴な王です。その息子に生

まれたヘロデ・アンティパスは、ユダヤの地方を、ローマに託されて統治していたのですが、腹違いの兄弟フィリポの奥さんだったヘロディアをうばって自分の妻としていました。それは悪いことです。バプテスマのヨハネという人がいました。当時、ユダヤの全地方とエルサレムの人々に、罪の赦しを得させる悔い改めの洗礼を宣べ伝えて多くの人に洗礼を施していました。バプテスマのヨハネは、ヘロデにも、自分の兄弟の妻を奪って結婚することは律法で許されていない、と悔い改めをせまっていました。ヘロデは罪を指摘されて困っていました。

ヘロデが困っていたのは、自分の罪を指摘されたから、だけではなく、バプテスマのヨハネが正しい、きよい人だと知っていたからでした。自分の罪を指摘されてとても当惑しながら、けれどもそれでもなお喜んでヨハネの話すことに耳を傾けていたのです。マルコによる福音書はバプテスマのヨハネのお話から始まっています。その1章を見ますと、ヨハネが語っていたメッセージの内容が、洗礼のこととイエス様のこととわかります。人々に罪の赦しを得させる悔い改めの洗礼のことと、自分のあとで来られるイエス様は聖霊によって洗礼を授けてくださる方であるということです。ヘロデは一方で悪いことをしたという自覚は持ちつつ、他方で同時にヨハネの語ることを喜んで聞いていたのです。しかし妻ヘロディアは違いました。自分も同意をしてフィリポを離れヘロデのもとに来たことをバプテスマのヨハネが、それはいけないことです、と指摘したことを根にもって、いつか殺してやろう、と考えていたのです。恐ろしいですね。ヘロデはヘロディアからヨハネを保護するために、彼をとらえて牢につないでいたのかもしれない。

しかしある日大変なことが起こりました。ヘロデは誕生日にお客さんをたくさん招いて祝う会をしたのですが、ヘロディアの娘が舞を踊ったのを気に入ってなんでも望むものを与えると言いました。娘は母に尋ねるとこのときとばかり「バプテスマのヨハネの首を欲しいといいなさい」と言われヘロデに告げます。そこでヘロデはまた困りました。「非常に心を痛めた」と記されています。尊敬しているヨハネを殺すわけにはいかない。しかし、みんなの手前、自分の面子(めんつ)もある。ついに兵に命じてヨハネを殺して首をはね、その場に持ってこさせました。ヨハネは「それはできない」と言って、みんなから嘘つきだと客たちから言われることを恐れて、ヨハネの首をはねたのでした。

みなさん、こんな恐ろしいことが聖書に書かれています。たくさんの画家たちもこのショッキングな記事を作品に残しています。みなさんはどう思われますか。

イエス様がお働きを始められたとき、ある人は「エリヤだ」と言い、ある人は「バプテスマのヨハネがよみがえった」と言いましたが、ヘロデはヨハネを殺したことを思い出してたいへん恐れました。ヘロデがああときヨハネを殺さなければならぬほど恐れたのは、人の目でした。自分の評判が下がること、地位や立場を失うこと、人から失望されることでした。ヨハネはヘロデの罪を示しました。聖書は私たちを人の前ではなく、神様のみ前に導き出します。私たちの申し開きのできない、弁解のできない、ごまかすことのできない罪びとの姿を明らかにしま

す。神様の前で裸にします。自分の欲望を満たすために人を傷つけ、悪いことをします。また、私たちも人の目を恐れ、人から失望されることを恐れて、罪を重ねます。人の前では権威や立場や上手な言い訳で乗り切ることができても、神様の御前で私たちは罪びとです。ヘロデは困りました。自分の罪がわかったけど、どうにもできないで困りました。どうしようか、と思いました。自分のミスを認めず、隠し、嘘で固め、どうしようもなかった、と自分に言い聞かせて、妥協しているのに素直になれませんでした。

アダムとエバの罪の墮落と同じ性質です。アダムは禁断の木の実を食べたことを神様から指摘されたとき、食べたのか、と言われたことに答えず、それはあなたがわたしの傍らに置いたエバの誘いがあったからだ、と言いつけました。エバも自分の罪を認めず、あの蛇が誘ったからと弁解しました。自分の罪を認めないこと、かわいそうで無垢な自分は誘われて罪を犯してしまったのだから、いわば犠牲者だ、と人や世間を責めています。

こんなかたくなな私たちに救いはあるのでしょうか。神様の前に罪を責められても、するりとのがれようとするずるい私たちに救いはあるのでしょうか。

バプテスマのヨハネは、語ったメッセージでイエス様を紹介しましたが、その死においてもイエス様を証しました。人々はバプテスマのヨハネを旧約聖書の預言者エリヤの再来だ、と言っていました。マルコ9章13節でイエス様は、ご自分が苦しめられはるかかきめられる前に人々はエリヤのようなヨハネを好きなようにあしらった、と言われました。ヘロデは神様から遣わされたヨハネを拒否してしまいました。ヘロデは人々から失望されないように、という自分可愛さのために、ヨハネはいのちを落としました。マルコ15章15節にはピラトがイエス様を拒否したことが記されています。イエス様は、イエス様には何の罪も見出さなかったポンテオ・ピラトによって十字架刑に処せられました。それはピラトが自分の前で大声で「イエスを十字架につけよ！」と叫ぶ民衆を満足させるためだったと書かれています。バプテスマのヨハネは自分の死によって、やがて十字架で死んでくださるイエス様を紹介するものとなったのです。

イエス様はご自分の権威を用いず、十字架のはるかかきめと苦しみを受けられました。人は自分の面子にこだわり、罪を認めず、心をかたくなにします。そのようなどうしようもない人の罪をイエス様はそのまま受け止めて担ってくださいました。本来赦されるべきではないそんな私たちの弱い、ずるい、けがれた姿を、イエス様はまるごとになってくださいました。そして、神様の前でその裁きを身代わりに受けてくださったのです。イエス様は世の権威に弱々しく敗北して十字架にかけられたものではありません。私たちすべての罪を背負って、身代わりに神様の刑罰を受けてくださったのです。神様の御前で申し開きができないのをうすうす知りながら、でも素直になれない私たちの恥ずかしい心を、そのまま何も言わないで、担ってくださったのです。

バプテスマのヨハネはイエス様を聖霊によって洗礼を授ける方、と紹介しました。金持ちの青年がイエス様のところに来て、正しいことはすべて行っています、これで私も天国に行けますか、と尋ねたとき、イエス様は持ち物を売り払って貧しい人に施しをなささい、と言われたことがマルコの10章に記されています。金持ちだったので残念そうに青年はその場を去りました。それを見ていた弟子たちは、それならだれが救われるだろうか、とつぶやきました。イエス様は弟子たちを見つめて「それは人間にはできることではないが、神にはできる、神はなんでもできるからだ」と教えられました。イエス様は人間にできないことを、神様はしてくださると言われたのです。私たちは強情で、罪を犯したことを神様の御前で認めたくないのです。また、自分が責められることを快く思いません。追い込まれていた、魔が差した、と外のせいにするか、あるいは、これは巧みな逃避ですが、どうせ私はもともと罪深いものですから、とことさらに自己卑下をして神の裁きを逃れようとすることもあります。そんな素直ではない私たちは救われるのでしょうか。はい。それは人間にはできることではないが、神にはできる、とイエス様は言われます。あなたの心にあなたの罪を示し、そしてあなたが罪の赦しを得させる悔い改めにすすみ、そしてあなたの罪をすべてになさったイエス様を信じて、あなたのすべての罪を赦していただくのです。

今日、あなたもイエス様の御前で困っていたら、罪の赦しを受けましょう。そこに新しいいのちが与えられます。そして、迷惑をかけた方々にお詫びをし、必要な償いをし、仲直りをして、神様からいただいたいのちを安心して、喜んで、のびのびと生きていく者とかえられます。

この一週間も、面子を気にして素直になれないわたしのすべてを担ってくださったイエス様が、あなたと共に歩まれます。あなたも隣人のそのまますを受け入れ、心で裁かず、あきらめず、謙遜に信頼関係を立て直していきましょう。隣人の幸せに役立つものとしてさらに成長できるように、自分を鍛え、志しを高くもちましょう。聖霊によって洗礼をおさずけになるイエス様の赦しの中を歩み、あたらしいいのちを生きましょう。

ヘロデは罪を犯したことを覚えてヨハネの教えに耳を傾けました。神様にできないことはありません。信じて歩みましょう。

「なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。」マルコ 6:20

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### **讃美歌：225番 献金 献金感謝の祈り**

1. すべての人に 宣べ伝えよ、神のたまえる みおとずれを

天(あめ)なる父は み子をくだし、救いの道をひらきませり

2. **あまねく宣べよ、よき知らせを、まことの幸(さち)を 求めつつも  
むなしきものに 誘われゆく 世のはらからに 宣べ伝えよ**

3. 十字架のうゑに 死にたまえる 御子こそ永久(とわ)の 救いなれや  
神のたまえる この知らせを、地の果てまでも 告げひろめよ **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讃美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神(みかみ)に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### **後奏**